



只見線利活用計画

2023 - 2027

ふたたび、はじまる。

再会、只見線



只見線利活用推進協議会

< 目 次 >

はじめに	1
(1) 計画の目的と位置づけ	1
(2) 計画期間	1
(3) 計画の全体像	2
第1章 只見線と沿線地域の概要	3
(1) 只見線の概要とこれまでの経緯	3
(2) 沿線地域の現状と地域資源	5
(3) 只見線の利活用促進に向けたこれまでの主な取組	7
第2章 計画の方向性	9
(1) 目指すべき姿	9
(2) 基本方針	10
(3) 達成目標	12
第3章 重点プロジェクトと施策メニュー	13
1 目指せ海の五能線、山の只見線プロジェクト	14
2 奥会津景観整備プロジェクト	18
3 只見線学習列車プロジェクト	20
4 インバウンド誘客再加速化プロジェクト	22
5 只見線を介した関係人口創出プロジェクト	24
6 みんなの只見線プロジェクト～只見線に乗って～	26
7 只見線産業育成プロジェクト	28
8 只見線二次交通整備プロジェクト	30
9 只見線の新たな価値創造プロジェクト～幸せを運ぶ只見線～	32
10 只見線魅力発信プロジェクト	34
第4章 計画の推進体制と進め方	38
(1) 推進体制	38
(2) 計画の進行管理と必要な見直し	39
(3) アクションプログラムの策定	39

はじめに

(1) 計画の目的と位置づけ

平成 23 (2011) 年 7 月に発生した新潟・福島豪雨で、会津川口～只見駅間が不通となった只見線では、県および沿線市町が協議を重ね、上下分離方式による同区間の復旧・再開を決定し、平成 30 (2018) 年 3 月に、只見線の利活用と、それによる地方創生を目指す「只見線利活用計画」が策定されました。同計画では、「目指せ 海の五能線、山の只見線プロジェクト」を筆頭に、9 つの重点プロジェクトを設定し、5 年間の計画期間の中で多様な取組を展開し、令和 4 (2022) 年 10 月には全線運転再開を実現しています。そうした中、只見線利活用計画に基づく 5 年間の取組成果を踏まえ、全線運転再開後の只見線の更なる利活用の推進と、鉄道を活かした沿線地域の活性化を目指し、2 期目となる新たな只見線利活用計画を策定します。

本計画は、只見線の更なる利活用の推進と、鉄道を活かした沿線地域の活性化を図るための方向性や重点プロジェクト、施策メニューを位置付け、県、沿線自治体、JR、および沿線地域の事業者や住民が連携して取り組むための行動指針とします。

(2) 計画期間

本計画は、令和 5 (2023) 年度から令和 9 (2027) 年度までの 5 年間を計画期間とし、社会経済情勢の変化や只見線の利活用状況等を踏まえ、適宜見直しを行うこととします。



(3) 計画の全体像

第1章 只見線と沿線地域の概要

第2章 計画の方向性

目指すべき姿

只見線が地域の暮らしや文化、産業を支え輝かせる
日本一の「地方創生路線」

基本方針

只見線の「価値」を地方創生（住みたい、住み続けられるまち）
に活かす・つなげる

<只見線の5つの価値>

- ① 生活を支える交通ネットワークとしての価値【交通】
- ② 交流人口を呼び込む観光資源としての価値【交流人口】
- ③ 地域の象徴、誇らしさ、拠り所としての価値【象徴】
- ④ 関係人口を生む地域資源としての価値【関係人口】
- ⑤ 交通以外で日々の暮らしに役立つ価値【暮らし】

第3章 重点プロジェクトと施策メニュー

<10の重点プロジェクト>

1	目指せ海の五能線、山の只見線プロジェクト
2	奥会津景観整備プロジェクト
3	只見線学習列車プロジェクト
4	インバウンド誘客再加速化プロジェクト
5	只見線を介した関係人口創出プロジェクト
6	みんなの只見線プロジェクト～只見線に乗って～
7	只見線産業育成プロジェクト
8	只見線二次交通整備プロジェクト
9	只見線の新たな価値創造プロジェクト～幸せを運ぶ只見線～
10	只見線魅力発信プロジェクト

第4章 計画の推進体制と進め方

②只見線全線運転再開までの経緯

只見線は、平成 23（2011）年 7 月に発生した新潟・福島豪雨の影響で、会津坂下～小出間が不通となりましたが、平成 24（2012）年 10 月までには、会津川口～只見駅間を除き、順次運転が再開されました。

3つの橋が流出するなど被害の大きかった会津川口～只見駅間については、県と会津地域が一丸となって様々な課題を克服し、国と JR 東日本の協力を得ながら上下分離方式により鉄道で復旧することが決定されました。平成 30（2018）年 6 月に復旧工事を開始し、工法変更による完了時期の変更などを経て、令和 4（2022）年 10 月 1 日に全線運転再開を果たしました。

■只見線被災から全線運転再開までの経緯

平成 23（2011）年	7月 27日 ～ 30日	新潟・福島豪雨災害により只見線に被害。会津川口～会津大塩間で第 5・6・7 只見川橋梁が流失、また会津坂本～会津柳津間で路盤が流出し、会津坂下～小出間が不通となる。
	8月 7日	会津坂下～会津宮下間で運転再開。
	8月 11日	大白川～小出間で運転再開。
	12月 3日	会津宮下～会津川口間で運転再開。
平成 24（2012）年	10月 1日	只見～大白川間で運転再開。 これにより、不通区間は会津川口駅～只見駅間となる（代行バス運転あり）。
平成 25（2013）年	5月 21日	JR 東日本が会津川口～只見駅間における復旧費用が約 85 億円、工期 4 年以上となることを公表。
	11月 10日	只見線の復旧・復興に向けた連携の強化、利活用促進策等の検討のため、JR 只見線復興推進会議（福島県、会津 17 市町村、新潟県、魚沼市、関係団体が構成）を設置。これ以降、平成 29（2017）年にかけて、福島県・関係市町村において利活用策を検討するとともに、沿線市町村において住民懇談会を開催。
平成 28（2016）年	12月 26日	福島県と沿線自治体において、上下分離方式により鉄道復旧する方針を採択。
平成 29（2017）年	3月 27日	福島県 JR 只見線復興推進会議において、地元の総意として上下分離方式による復旧方針を決定し、福島県と会津 17 市町村で確認書を締結。
	6月 19日	福島県と JR 東日本は、会津川口～只見間を上下分離方式により鉄道で復旧することで合意。
平成 30（2018）年	6月 15日	JR 東日本において鉄道復旧工事起工式が金山町で執り行われ、復旧工事が開始。
令和 2（2020）年	3月 14日	ダイヤ改正により、会津若松～会津川口間でキハ E120 系の運行が開始。
	7月 12日	只見～小出間でキハ 110 系の運行が開始。
	8月 26日	JR 東日本から、運転再開時期について令和 4（2022）年中を目指していることを発表。
令和 3（2021）年	7月 10日	会津鉄道「お座ト口展望列車」が会津若松～会津川口間を運行。 このうち、西若松～会津川口間は初入線となる。
	8月 29日	只見線全線開通から 50 周年となる。これを記念し、「只見海里」が小出～只見間を運行。
	11月 30日	福島県が会津川口～只見間において、上下分離方式の導入のため第三種鉄道事業許可を取得。また、JR 東日本が同区間において第二種鉄道事業許可を取得するとともに、令和 4（2022）年秋ごろの運転再開を目指していることを発表。
令和 4（2022）年	10月 1日	全線運転再開。

(2) 沿線地域の現状と地域資源

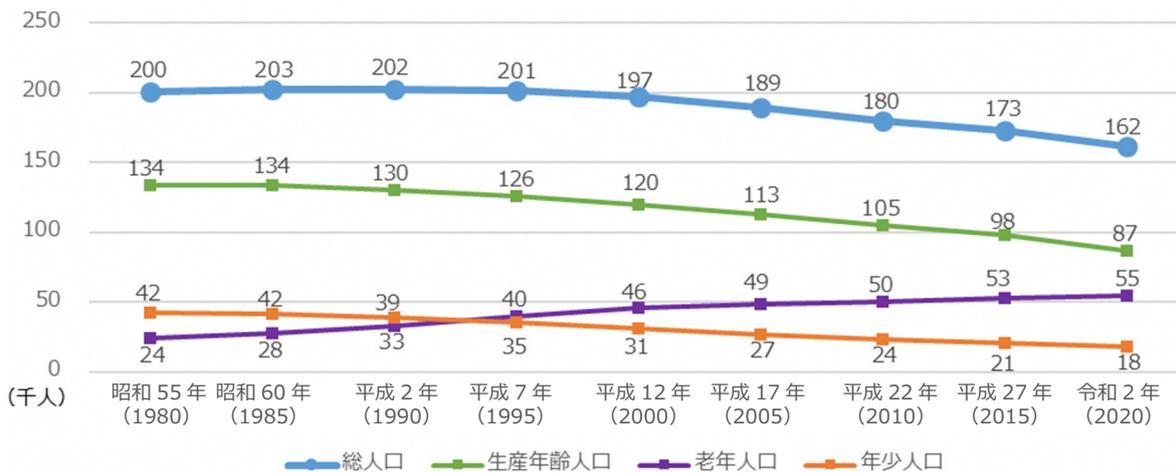
①沿線7市町の現況

福島県の只見線沿線7市町の総人口は、令和2（2020）年で161,897人と、平成27（2015）年（173,141人）の93.5%になっています。事業所数は平成28（2016）年が8,877事業所と、平成21（2009）年の86.8%に減少しています。

沿線7市町ごとの人口に占める高齢者（65歳以上）の割合は、福島県全体が32.9%（令和4（2022）年）であるのに対し、金山町61.9%、三島町55.1%など、会津若松市を除く6町はいずれも40%を超えています。

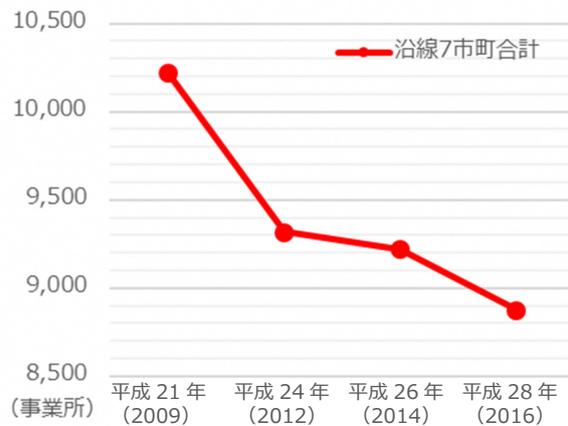
只見線沿線地域は、人口減少と高齢化の進行による消費の減少など、地域の活力の低下が懸念されており、まさに、今が地域の存続を左右する重要な転換期となっています。

■只見線沿線7市町の人口推移



■只見線沿線7市町の仕事所 平成21（2009）年比推移

	平成21年(2009)	平成24年(2012)	平成26年(2014)	平成28年(2016)
会津若松市	7,400	6,792	6,753	6,535
会津美里町	929	834	834	778
会津坂下町	1,042	935	895	856
柳津町	217	191	191	190
三島町	128	102	95	90
金山町	183	175	169	161
只見町	322	289	284	267
7市町合計	10,221	9,318	9,221	8,877



出典 人口推移：地域経済分析システム（RESAS）| 総務省「国勢調査」

事業所 2009年比推移：地域経済分析システム（RESAS）| 総務省「経済センサス-基礎調査」（2009、2014年）、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工（2012、2016年）

高齢化率：福島県統計課資料「福島県の高齢者の数（65歳以上人口）～「敬老の日」にちなんで～（令和4年8月1日現在「福島県の推計人口」より）」

②沿線地域の地域資源

只見線はその鉄道施設自体が土木学会選奨土木遺産として価値が認められていることに加え、只見線沿線には、鶴ヶ城をはじめとする城郭や城跡、只見川やユネスコエコパークに登録された自然環境、只見川をせき止めて造られた数々のダム、日本遺産「会津三十三観音めぐり」など、歴史や自然に育まれた資源が多く存在しています。令和3（2021）年には、地理的な連続性や風景の一体性等から只見柳津県立自然公園とその周辺の一部区域が越後三山只見国定公園に編入されました。さらに、地域の魅力向上に向け、各地で施設整備や名物・名産品開発などが積極的に進められています。

■ 只見線沿線7市町の地域資源

会津若松市	<ul style="list-style-type: none"> 鶴ヶ城 飯盛山 御薬園 	<ul style="list-style-type: none"> 会津藩校日新館 会津藩主松平家墓所 東山温泉、芦ノ牧温泉 	<ul style="list-style-type: none"> 七日町通り 県立博物館 	 <p>鶴ヶ城</p>
会津美里町	<ul style="list-style-type: none"> 会津本郷焼 中田観音（弘安寺） 	<ul style="list-style-type: none"> 向羽黒山城跡 新鶴ワイナリー 	<ul style="list-style-type: none"> 伊佐須美神社 ほっとびあ新鶴 	 <p>会津本郷焼</p>
会津坂下町	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅あいづ湯川 	<ul style="list-style-type: none"> 会津坂下 	<ul style="list-style-type: none"> 立木観音（恵隆寺） 	 <p>早戸温泉</p>
柳津町	<ul style="list-style-type: none"> 福万虚空藏菩薩圓藏寺 柳津西山地熱発電所 	<ul style="list-style-type: none"> 斎藤清美術館 柳津温泉、西山温泉 	<ul style="list-style-type: none"> 宮下ダム 会津桐 	 <p>新・霧幻峡の渡し</p>
三島町	<ul style="list-style-type: none"> 観光交流館からんころん 三島の「サイノカミ」 奥会津編み組細工 道の駅尾瀬街道みしま宿 アーチ3橋（兄）弟 	<ul style="list-style-type: none"> 三島町生活工芸館 美坂高原 大林ふるさとの山 第一只見川橋梁ビューポイント 宮下温泉、早戸温泉 	<ul style="list-style-type: none"> 宮下ダム 会津桐 	 <p>ただみ・ブナと川のミュージアム</p>
金山町	<ul style="list-style-type: none"> 霧幻峡の渡し 東北電力奥会津水力館「みお里」 本名ダム 大塩温泉・大塩炭酸場 	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅奥会津かねやま かねやまふれあい広場 上田ダム 天然炭酸温泉、玉梨温泉 	<ul style="list-style-type: none"> 第二沼沢発電所 か 	
只見町	<ul style="list-style-type: none"> 河井継之助記念館 会津朝日岳 森林の分校ふざわ ただみ・ブナと川のミュージアム 亀岡ビーチバレーコート・ただみ・モノとくらしのミュージアム 奥会津ただみの森キャンプ場 只見町インフォメーションセンター ふるさと館田子倉 只見ダム、田子倉ダム 	<ul style="list-style-type: none"> 蒲生岳 浅草岳 いわなの里 三石神社 	<ul style="list-style-type: none"> 要害山 恵みの森 深沢温泉 米焼酎 	
祭り・行事	<ul style="list-style-type: none"> 雪まつり（柳津町、三島町、金山町、只見町） 		<ul style="list-style-type: none"> 歳之神 	
グルメ・名物	<ul style="list-style-type: none"> ソースカツ丼 馬刺し 	<ul style="list-style-type: none"> あわまんじゅう 日本酒 赤べこ 	<ul style="list-style-type: none"> 会津地鶏 	

(3) 只見線の利活用促進に向けたこれまでの主な取組

福島県および沿線市町では、「只見線利活用計画」の9つのプロジェクトに基づくアクションプログラムを策定し、毎年度見直しを図りながらさまざまな取組を展開してきました。

令和4（2022）年10月1日の全線運転再開前後には、記念式典をはじめ各種記念事業やイベントを実施する一方、広報活動や受け入れ態勢づくりにも力を入れてきました。

■ 県・沿線市町のこれまでの取組（抜粋）

<p>福島県</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コーディネーターの設置 ・只見線利用者のための駐車場の確保と観光周遊バスの運行 ・只見線プロモーション強化 ・首都圏等誘客ツアー ・高校生サミット ・観光周遊バスの運行 ・只見線 AR スタンプラリー ・会津・南会津地域の親子を対象とした只見線限定ツアー ・新潟県在住者を対象とした只見ふるさとの雪まつり体感ツアー ・只見線プロモーション動画作成 等 	 <p style="text-align: center;">全線運転再開記念式典</p>  <p style="text-align: center;">お座トロ展望列車</p>
<p>会津若松市</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生を対象とした只見線乗車体験ツアー ・イベント列車のおもてなし ・只見線に関する情報発信 等 	 <p style="text-align: center;">只見線全線再開記念フォトコンテスト（会津美里町）</p>
<p>会津美里町</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・只見線に関する情報発信 ・駅前冬季イルミネーション ・有志の町民・地元高校生による駅前美化活動 ・デマンドタクシー運行 ・ノベルティ作成 ・只見線全線再開記念フォトコンテスト 等 	 <p style="text-align: center;">会津坂下駅前公衆トイレ</p>
<p>会津坂下町</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント列車のおもてなし ・駅前イルミネーション ・只見線応援キャラクター「キハちゃん」によるPR活動 ・JR 会津坂下駅前公衆トイレ整備 等 	 <p style="text-align: center;">あいづやないづモダン駅フェス</p>
<p>柳津町</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・トロッコ列車乗記念 PR 用あわまんじゅうの配布等のおもてなし ・民間と共同しての駅舎の利活用 ・会津柳津駅待合室暖房管理 ・霊まつり流灯花火大会 ・イルミネーション&ライトアップ ・会津柳津駅前公衆トイレ整備 ・只見線沿線景観整備 ・会津柳津駅利活用検討実証事業「あいづやないづモダン駅フェス」 ・只見線再開記念柳津アーカイブ展 等 	

<p>三島町</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・訪日外国人おもてなし（ビューポイント案内、パンフレットの多言語化 等） ・ビューポイント維持管理（環境整備、遊歩道改修） ・町営バス運行、町内観光周遊バス運行 ・会津宮下駅前再整備 ・会津宮下駅前イベント ・レンタサイクルを利用した奥会津三島魅力発信 ・道の駅尾瀬街道みしま宿駐車場拡張 ・駅周辺のぼり旗設置 ・菜の花畑ライトアップ 等 	 <p>ビューポイント整備</p>
<p>金山町</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド対応（着地型旅行商品の造成） ・景観整備（ビュースポットの草刈り、除雪等） ・SNS を使った観光 PR ・情報発信 ・只見線を活用した地域 P R（郷土写真家星賢孝氏の写真活用、ショートムービー制作 等） ・霧幻峡（三更地区）整備、霧幻峡運営 ・観光案内板改修 ・地域特産品等ブランディング化 ・乗合タクシー運行 ・レンタカー ・金山町観光情報センター運営 ・只見線沿線観光資源 PR 等 	 <p>金山町観光案内板</p>  <p>横断幕掲出（只見駅）</p>
<p>只見町</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・つながれつなぐれ只見線応援 ・只見線車両にみんなで手を振ろう ・B級グルメ商品開発 ・定期路線ワゴン自然首都・只見号運行 ・只見駅周辺魅力化向上（縁結び商品開発 等） ・只見駅前賑わい創出、駅周辺景観整備 ・イベント列車おもてなし ・ビュースポット整備 ・レンタルEバイク活用 ・全集落のぼり旗掲示 ・開通前線路を歩こう（レールスター） ・再開通記念事業（ノベルティ配布、記念幕設置、情報発信、記念硬券作成 等） 	 <p>車両に手を振ろう（只見駅）</p>  <p>レンタルEバイク（只見駅）</p>
<p>その他 民間団体等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生等による地域創生の推進（福島県、会津大学 等） ・ながかわ雪月列火（只見線応援団つなぎ隊） ・只見線活性化シンポジウム ・雪灯りで只見線を応援しよう ・只見線に乗って「魚沼紅葉列車の旅」（以上、だんだんど〜も只見線沿線元気会議） ・イベント列車おもてなし（車両乗り込み観光 PR）（以上、只見川ライン観光協会） ・奥会津（只見線）フォトコンテスト ・奥会津の観光名所を巡るタクシープラン造成（以上、奥会津五町村活性化協議会） 等 	 <p>B級グルメ商品開発（只見町）</p>

第2章 計画の方向性

(1) 目指すべき姿

ローカル鉄道の廃止が相次ぐ中で、平成23年7月の新潟・福島豪雨で甚大な被害を受けた只見線は、県や沿線自治体、JR東日本による度重なる話し合いと沿線住民の熱い思いにより、令和4年10月に全線運転再開を実現しました。

只見線は全国的に見ても利用者の少ない路線ですが、この路線を多額の費用をかけてまで復旧・維持していく理由は、只見線が地域の暮らしや文化に欠かせない存在であるとともに、沿線地域に大きな効果と価値をもたらすことが期待されるからです。

只見線沿線は高齢化、人口減少が進む中山間地域です。只見線が地域の暮らしや文化、産業を支え、また地域も只見線を全力で支えるという関係の中で、只見線が地域の大きな魅力・シンボルとなり、地方創生を力強く実現していく、そのような姿を目指します。

目指すべき姿

只見線が地域の暮らしや文化、産業を支え輝かせる
日本一の「地方創生路線」



(2) 基本方針

「目指すべき姿」を実現するため、本計画の基本方針を以下のように定めます。

只見線の「価値」を地方創生（住みたい、住み続けられるまち）
に活かす・つなげる

只見線の「価値」とは・・・？



◆ 地方創生につながる只見線の5つの「価値」

① 生活を支える交通ネットワークとしての価値【交通】

- 日常生活の中での移動手段として只見線を利用するという、交通ネットワークとして最も基礎的な価値です。
- 基本的に運行を維持できればその価値は保たれますが、価値を高めるためには、運行本数の増加など、利便性の向上が望まれます。
- 運行し続けるためには生活の中での利用者数を維持、増加させる努力が必要です。また、マイレール意識（参加意識）の更なる向上に向けた取組が望まれます。



只見線を利用する高校生

② 交流人口を呼び込む観光資源としての価値【交流人口】

- 只見線が観光資源となって交流人口を呼び込み、その結果、地域経済の活性化・雇用創出につながるという、現状で只見線に最も期待されている価値です。
- 只見線の観光資源としての「存在価値」と「乗車価値」の磨き上げ（知ってもらう、来て・乗ってもらう、満足してもらうための取組）が求められます。



第一只見川橋梁

③ 地域の象徴、誇らしさ、拠り所としての価値【象 徴】

- 地域の象徴や誇らしさの対象として只見線が意識される、また、只見線の存在が心の拠り所となり、暮らしの中の安心感につながるといった、地域住民の精神的支柱や心の支えとなる価値です。
- さらに「すばらしい路線」として世間の認知度や外部評価が高まれば、その価値（誇らしさ）も高まります。



会津坂下町杉踏切での歓迎

④ 関係人口を生む地域資源としての価値【関係人口】

- 只見線応援団の存在や只見線をテーマとしたふるさと納税など、只見線の存在が関係人口を生み出し、また移住・定住の「きっかけ」となり得る地域資源としての価値、また、まちづくりの題材・テーマとなる価値です。
- 只見線の存在を関係人口の創出、その先の移住・定住につなげるという強い目的を持った取組が必要です。



只見線応援団ロゴマーク

⑤ 交通以外で日々の暮らしに役立つ価値【暮らし】

- 柔軟な発想で、只見線の新たな利用方法を考えて実行することで、奥会津地域の生活の利便性や暮らしやすさの向上につなげるという、只見線の価値を新たにつくり出すアプローチ（ゼロからの価値創造）です。
- 新たな発想によるユニークな取組は話題性、ニュース性があり、只見線の認知度向上にもつながることも期待できます。



会津高田駅前での花壇整備

これら5つの価値を「維持する」「高める」「創出する」ことを基本方針とします

(3) 達成目標

本計画の達成目標（目指す状態）として、全体目標と基本方針で整理した只見線の5つの「価値」別の個別目標を以下のように設定します。

◆全体目標：只見線利用者数（平均通過人員）

	2027年度目標	(参考)	
		2021年度	2010年度
会津川口駅～只見駅	100人/日	12人/日	49人/日
会津若松駅～小出駅	350人/日	218人/日	370人/日

※平均通過人員：1日1kmあたりの利用者数

※2021年度実績の会津川口駅～只見駅間は代行バス

◆個別目標

交通	奥会津地域の住民が年に1回以上只見線を利用する
交流人口	只見線沿線地域に訪れる観光客入込数が年間620万人以上
象徴	奥会津地域の住民の8割以上の人が見見線を地域のシンボルとして認識している
関係人口	「只見線に関する事業」に用途を指定したふるさと納税件数年1,500件以上
暮らし	新たな只見線の活用方法の実現件数延べ5件以上

※ここでいう奥会津地域は、柳津町、三島町、金山町、只見町の4町を指す。

第3章 重点プロジェクトと施策メニュー

前章で位置付けた【地方創生につながる只見線の5つの価値】を「維持」「向上」「創出」するために、以下に示す10の重点プロジェクトを位置付け、実行します。

■10の重点プロジェクト

		只見線の5つの価値				
		交通	交流人口	象徴	関係人口	暮らし
1	目指せ海の五能線、山の只見線プロジェクト 会津地域ならではの企画列車を運行し、将来的にはJR五能線リゾートしらかみのような、只見線オリジナルの観光列車の定期運行を目指す。		●	・	・	
2	奥会津景観整備プロジェクト 奥会津の風景を阻害している杉や雑木を伐採し、車窓や沿線のビューポイントを創出する。また、駅や線路沿いの美化活動を推進する。		●	・	・	
3	只見線学習列車プロジェクト 既存の教育プログラム等とも連携し、駅や列車内、沿線地域で環境教育や体験学習等を提供することで、活きた知識の習得と郷土愛の心を育む。	・	●	●	・	
4	インバウンド誘客再加速化プロジェクト 台湾等の東アジアをターゲットとしたプロモーションを積極的に展開するとともに、沿線地域の受入体制を強化する。		●	・	・	
5	只見線を介した関係人口創出プロジェクト 只見線の存在を関係人口の創出につなげていくため、大学生等との交流活動の展開や只見線応援団が活躍できる場を創出・拡大する。				●	
6	みんなの只見線プロジェクト～只見線に乗って～ 地域の機運を高め、マイレール意識を醸成することで、只見線の利用促進を図るとともに、来訪者へのおもてなしの心を醸成する。	●		●		
7	只見線産業育成プロジェクト ガイドの育成や商品開発など、只見線を活用しながら、地域ならではの産業を育成することで、住民が活躍できる場を創出する。		●	・	●	・
8	只見線二次交通整備プロジェクト 周遊バスやレンタサイクル、レンタカー等の二次交通の整備により、生活利用、観光利用の両面で只見線の利用促進を図る。	●	●			
9	只見線の新たな価値創造プロジェクト～幸せを運ぶ只見線～ 只見線のポテンシャルを最大限に活用し、生活の利便性や暮らしやすさの向上につながるような、新たな只見線の活用方法を検討・試行する。			・	・	●
10	只見線魅力発信プロジェクト 只見線のプロモーションを強化し、ウェブページやSNS、テレビなど、様々な媒体により地域の魅力を発信する。		●	●	●	

重点プロジェクト

1 目指せ海の五能線、山の只見線プロジェクト

5つの価値との関係	交通	交流人口	象 徴	関係人口	暮ら し
		●	・	・	



背 景	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 沿線地域の人口が減少する中、只見線の利用促進を図る上では、観光利用を増加させていく必要があります。そのためには、只見線の観光面での魅力向上を図り、只見線への乗車自体が目的となる観光利用を増やしていくことが求められます。 ➤ また、只見線沿線地域には、自然、風景、歴史・文化、食、体験など、独自性の高い資源が多くあります。地域資源を磨き上げ、只見線とこれらをつなぐ周遊観光を促進していく必要があります。
目 的	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 只見線沿線地域の観光資源を磨き上げ、只見線を利用した周遊観光を促進するとともに、只見線の観光サービスの向上や企画列車の運行、只見線オリジナルの観光列車を導入することで、乗車自体が目的となる只見線の観光利用を促進します。 ➤ 将来的には、「海の五能線」に並ぶ「山の只見線」として、全国はもとより世界に注目されるエリアとなることを目指します。
概 要	<ul style="list-style-type: none"> ➤ これまでも実施してきた企画列車・イベント列車の運行を継続して行うとともに、沿線地域ならではのおもてなし・歓迎サービスを提供します。 ➤ 只見線オリジナルの観光列車の導入に向けた運行方策等に関する検討を進めます。 ➤ また、沿線地域の観光資源の磨き上げを行うとともに、利用者ニーズを踏まえ、より観光で利用しやすいダイヤの検討など、観光サービスを向上させる取組を推進します。
K P I	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 只見線オリジナルの観光列車の導入 現状：なし → 目標：導入・運行の実現 ◆ イベント列車の年間利用者数 現状：2,034人【2021】→ 目標：3,600人【2027】 (只見線オリジナルの観光列車の導入が実現しなかった場合)

◆ 施策メニュー

【表の見方】

<役割分担>

●：実施主体

○：連携・協力対象

<実施スケジュール>

■：取組内容の検討や実証など重点的な実施期間

—：決まったことを継続して実施する期間

4 定期列車における観光サービスの充実化				実施スケジュール				
役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
●	○	●	○	■				

< イベント列車・観光列車の運行 >

1 「びゅうコースター風っこ」等のイベント列車の企画・運行

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
○		●	●	■				

新緑の時期や夏休み期間、秋の紅葉シーズン等に、JRの「びゅうコースター風っこ」や会津鉄道の「お座トロ展望列車」、また、「乾杯列車」「語り部列車」など、車内で催し物を行うイベント列車（団体臨時列車）を企画し、只見線内で運行します。

2 イベント列車のおもてなし・歓迎サービスの提供

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
○	●	○	●	■				

イベント列車の運行に合わせ、車内や停車駅での特産品の販売、駅での歓迎イベントやガイドツアーの実施など、イベント列車の利用者に対するおもてなし、歓迎サービスの提供を行います。

3 只見線オリジナル観光列車の導入に向けた調査・準備

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
●	○	●		■				

只見線オリジナルの観光列車の導入に向け、導入する観光列車のタイプや運行形態（運行方法、運行区間、ダイヤ等）、サービス、列車の仕様等について検討を行うとともに、観光列車として改装を行う車両の確保に向けた調査を行います。

役割
分担

【県】 望ましい観光列車の運行形態等の調査・検討

【JR】 観光列車として改装を行う車両の確保に向けた調査

< 観光サービス・資源の磨き上げ >

4 定期列車における観光サービスの充実化								
役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
●	○	●	○	▶				

第一只見川橋梁上等のビューポイントでの速度低下（一時停止）運転、車内での観光アナウンスの実施、特産品等の車内販売など、定期列車の観光サービスを充実化させます。

役割分担 【県】 定期列車における望ましい観光サービスメニューの取りまとめ・関係者調整
 【JR】 観光サービスの実施または実施協力

5 観光資源磨き上げ（着地型旅行商品の造成等）								
役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
○	●		●	▶				

沿線地域に存在する観光資源のハード、ソフト両面からの磨き上げを継続して行い、訴求力を高めるとともに、体験プログラムとしての商品化を目指します。

6 駅を起終点としたエリアごとのまち歩きマップ等の作成								
役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
○	●			▶				

沿線地域をいくつかのエリアに区分し、各エリアのまち歩きマップを作成します。各マップを同様の規格、デザインで作成し、すべてのマップをつなぎ合わせることで、1枚の「只見線沿線マップ」が完成するような、マップ収集の楽しみを付加します。

また、近年のランニングブームを踏まえ、駅を起終点とし、只見線沿線の魅力的な風景の中を安全・快適に走ることができるランニングコース、ランニング後に利用できる入浴施設、只見線を利用したランニングのモデルプラン等を紹介する「（仮称）只見線 旅ランマップ」等の作成についても検討します。

7 「只見線で楽しむ旅」旅行商品の造成とツアー催行								
役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
●			●	▶				

旅行会社と連携し、只見線への乗車を組み込んだ会津地域を巡る旅行商品を造成・販売します。まずは検証ツアーとして、参加者の属性やニーズ、課題等を把握・分析し、将来的には助成金なしでのツアー催行の実現を目指します。

8 只見線オリジナルの駅弁・土産物・グッズ等の開発・販売

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
○	○		●	→				

只見線オリジナルの魅力的な駅弁や土産物・グッズ等を民間企業と連携して開発し、駅や列車内、道の駅等で販売します。

9 最適ダイヤの検討・検証

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
●	○	●		→				

利用者の目線で、休日ダイヤや快速運行等も含めた只見線の望ましい運行ダイヤを検討し、実験的な運行を通じてその効果と課題を検証します。

10 利用者にやさしい駅づくり

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
●	●	●		→				

駅の環境整備や駐車場整備、広場やトイレなどの環境美化、初めての人向けの乗り方案内の掲示、冬季の待合室へのストーブの設置など、利用者にやさしい駅づくりを進めます。

役割分担

【 県 】 県が管理する各駅の必要な整備

【 市町 】 広場や公衆トイレ等の整備等

【 J R 】 J R が管理する各駅の必要な整備

11 マイカー回送サービスの導入可能性の検討

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
○	○		●	→				

マイカー利用者の只見線への乗車を促すため、地元タクシー会社等との連携による降車駅への自動車回送サービスの導入可能性について検討します。

12 特別切符の導入可能性の検討

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
○		●		→				

「只見線一日フリー切符」など、より只見線を観光で利用しやすくする特別切符の導入可能性について検討します。

重点プロジェクト

2 奥会津景観整備プロジェクト

5つの価値との関係	交通	交流人口	象徴	関係人口	暮らし
		●	・	・	



撮影：奥会津郷土写真家 星賢孝

背景	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 只見川と鉄道橋が織り成す風景は、世界的にも注目が高まっていますが、ビューポイントからの只見線の眺め、および只見線車内からの眺めを杉や雑木が阻害している箇所がまだ多くあります。景観支障木の伐採・管理に取り組んでいますが、樹木は日々成長するため、継続した取組が求められます。 ➤ 特に奥会津地域は、国道 252 号に並行して、只見線や只見川等の美しい景観が続いており、ビューポイントを整備することで新たな観光スポットとなることが期待できます。
目的	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 只見線の観光資源としてのポテンシャルを最大限に発揮させるため、ビューポイントからの只見線の眺め、および只見線車内からの眺めをより魅力的にし、より印象に残る風景づくりを目指します。
概要	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 只見線のビューポイントからの眺め、および車窓風景を良好に保つため、景観支障木の伐採・管理等の必要な取組を継続して行います。 ➤ 既存の只見線ビューポイントをより利用しやすくするための必要な環境整備を行うとともに、新たなビューポイントの整備についても検討します。 ➤ また、来訪者が気持ちよく只見線を利用できるよう、駅や線路沿いの美化活動を推進します。
KPI	◆ 景観支障木伐採箇所数 目標：10 箇所【2023～2027 累計】

◆ 施策メニュー

13 景観支障木の伐採・管理

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
●	●	●		▶				

只見線の車窓風景を調査・確認し、只見線沿線の景観や車窓風景を阻害する支障木の伐採・管理を継続して行います。

14 只見線ビューポイントの整備・管理

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
●	●		○	▶				

只見線のビューポイントについて、駐車場を含む必要な施設整備を行うとともに、眺望を阻害しないよう、定期的な管理活動を行います。また、只見線を良好に眺めることができる新規のビューポイントを抽出し、必要に応じた整備を行います。

15 駅や線路沿いの美化活動、花壇等の整備・管理

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
○	○	○	●	▶				

沿線の地域住民有志の協力のもと、駅の清掃活動や線路沿いの除草活動を行います。また駅や線路沿いにおける花壇整備や植樹など、只見線の良好な景観形成に向けた取り組みを行います。

16 只見線の施設等のライトアップの検討

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
○	●	○		▶				

只見線の新たな夜の魅力として、土木学会選奨土木遺産に認定されている只見線鉄道施設群をはじめとする鉄道橋等の印象的なライトアップについて検討します。また、駅等のイルミネーションイベントを行います。

（参考）一ノ戸川鉄橋のライトアップ



喜多方市では実行委員会を組織し、福島遺産百選に選定された JR 磐越西線の一ノ戸川鉄橋のライトアップを行っている。

重点プロジェクト

3 只見線学習列車プロジェクト

5つの価値との関係	交通	交流人口	象徴	関係人口	暮らし
	・	●	●	・	



背景	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 只見線沿線地域には、自然、歴史・文化、暮らし、ダム、食など数多くの教育資源が存在します。只見線自体も、戦後の電力不足を解消するために建設された田子倉ダムの資材輸送鉄道としての歴史があります。 ➤ 令和3（2021）年9月には、只見川に架かる橋梁等の鉄道施設群（17施設）が、豪雪地帯を結ぶ重要なライフライン、四季折々の風景を創生する貴重な土木遺産群として評価され、公益社団法人土木学会の選奨土木遺産に認定されました。 ➤ 只見線を未来につなげていくためには、只見線の価値や魅力を広く子ども達に知ってもらうことが重要となります。
目的	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 既存の教育プログラム等とも連携し、只見線の駅や列車内、沿線地域で環境教育や体験学習等を提供することで、活きた知識の習得と郷土愛の心を育みます。 ➤ また、只見線の学習列車プログラムの提供を通じ、奥会津地域に教育旅行を呼び込みます。
概要	<ul style="list-style-type: none"> ➤ これまでに実施している学習列車の運行を継続して行っていくとともに、学習列車のプログラムをメニュー化します。 ➤ また沿線の小中学校の社会科学習等での只見線への乗車を推進します。
KPI	◆ 学習列車参加校数 現状：44校【2022】→ 目標：60校【2027】

◆ 施策メニュー

17 学習列車の運行（体験プログラムの提供）

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
●	●	○	○					

自然、歴史・文化、暮らし、ダム、食など、只見線沿線に存在する数多くの教育資源を活用し、只見線の乗車を含む体験学習を提供する学習列車を企画・運行します。

18 学習列車プログラムのメニュー化

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
●	●							

只見線車内や沿線での学習プログラムをメニュー化し、学年の違い等のニーズに合わせたプログラムを提供できるようにします。

役割分担 【県】プログラムメニューとしての取りまとめ
 【市町】プログラムメニューの素材整理と受入体制づくり

19 只見線を活用した奥会津教育旅行プランの作成と情報発信

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
●	●							

奥会津地域への修学旅行の誘致を目指し、只見線への乗車も含めた「奥会津教育旅行プラン」を作成し、情報発信します。

役割分担 【県】教育旅行プランの取りまとめと情報発信
 【市町】プログラムメニューの素材整理と受入体制づくり

20 沿線の小中学校を対象とした社会科学習等を通じた乗車促進

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
	●							

社会科学習等の学校行事を通じ、沿線の小中学校の児童・生徒が只見線に乗車する機会を積極的に創出します。

重点プロジェクト

4 インバウンド誘客再加速化プロジェクト

5つの価値との関係	交通	交流人口	象 徴	関係人口	暮らし
		●	・	・	



背景	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 只見線の観光利用の促進、および沿線地域の観光振興を図る上で、インバウンドの取り込みは極めて重要な位置づけとなります。 ➤ 只見線は「世界で最もロマンチックな鉄道」として海外でも話題となり、台湾を中心に多くの外国人観光客が訪れていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により外国人観光客は大きく減少しました。 ➤ 一方で、令和4（2022）年10月に日本への入国規制が大幅に緩和されるなど、ようやくインバウンドの訪日需要回復の目途が立ち始めており、コロナ禍で減少したインバウンド需要を再喚起していくことが求められます。
目的	<ul style="list-style-type: none"> ➤ コロナ禍で減少したインバウンドの取り込みに関する取組を再度加速化させ、主に台湾を中心とした東アジア、東南アジアからの外国人観光客の誘致を図ります。 ➤ また合わせて、外国人観光客が安心して只見線に乗車し、沿線の観光を楽しめるようにするための受入環境を整えます。
概要	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 海外に向けた只見線のプロモーション活動や交流活動を継続して展開します。 ➤ また、宿泊施設等における外国人観光客の受入環境整備や只見線ビューポイントでの通訳対応等のおもてなし活動を行います。
KPI	<p>◆ 奥会津地域での外国人宿泊旅行者数</p> <p>現状：1,224人泊【2019】→ 目標：4,800人泊【2027】</p>

◆ 施策メニュー

21 インバウンド誘致に向けたプロモーションの展開

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
●	○	○	○	▶				

ファミトリップや、海外のインフルエンサーの招聘、台湾等での写真展の開催など、只見線を通じた交流活動やプロモーション活動を継続して展開します。

22 地元通訳人材の発掘と体制整備

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
	●		●	▶				

外国語を話せる地元人材を発掘するなど、通訳サービスを提供できるような体制を沿線地域で構築します。

23 ビューポイント等における外国人観光客へのおもてなし

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
	●		●	▶				

地元通訳の協力のもと、ビューポイント等において、外国人観光客への案内等のおもてなし活動を行います。

24 宿泊施設等における外国人観光客の受入環境整備

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
○	○		●	▶				

沿線における屋外 Wi-Fi 設備の導入、外国語の案内マップ等の整備、翻訳アプリ等を活用した多言語対応を図るほか、キャッシュレスサービスの導入などを検討し、宿泊・観光施設等における外国人観光客の受入環境整備を進めます。

重点プロジェクト

5 只見線を介した関係人口創出プロジェクト

5つの価値との関係	交通	交流人口	象 徴	関係人口	暮らし
				●	



背 景	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 人口減少・高齢化が進行する中、地域活力を維持していく上では、只見線沿線地域に継続的に多様な形で関わる関係人口を獲得していくことが重要となります。 ➤ 只見線は風光明媚な山間を走る鉄道として、特に鉄道好きの中で認知度が高く、また被災したローカル線を復旧・再開した事例として人々の関心が高い鉄道です。令和4（2022）年時点で、全国約4,500人が只見線応援団として登録しており、沿線地域の関係人口の一部となっています。 ➤ 只見線は、特に奥会津地域において、地域に関心を持ってもらい、関わってもらうきっかけとなる重要な要素です。
目 的	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 学生を奥会津地域に呼び込む取組や鉄道ファンへのおもてなしなど、只見線の存在を関係人口の創出、およびその先の移住・定住につなげていきます。 ➤ また、只見線応援団の存在を最大限に活かしていくため、只見線応援団が活躍できる場を積極的に創出していきます。
概 要	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 古民家等を活用した大学生等との交流活動を通じ、若い世代を積極的に呼び込みます。 ➤ 只見線目的で訪れる鉄道ファンに、リピーターになってもらい、より深く地域に関わってもらえるようにするためのおもてなしを展開します。 ➤ また、只見線応援団の存在を今以上に活かしていくための取組を行います。
K P I	<p>◆ 只見線応援団加入者数 現状：4,583人【2022】→ 目標：6,600人【2027】</p>

◆ 施策メニュー

25 大学生等による地方創生の推進

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
○	●		●	▶				

大学生交流活動を発展させ、より多くの大学生等を奥会津地域に呼び込む取組を推進します。また、古民家等を活用した公開講座や学生のセミナーハウス、簡易宿泊所など、地域の拠点となる場の創出を目指します。

26 鉄道ファンの受入とおもてなし

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
●	●	○		▶				

鉄道ファン歓迎イベント等を開催するとともに、“撮り鉄”のための撮影場所に関する情報発信や撮影マナーの普及・啓発を図ります。

27 只見線応援団の拡大・ネットワーク化

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
●	○			▶				

只見線応援団会員を優待する加盟店を増やすなどし、只見線応援団へのインセンティブの充実化を目指します。また、只見線応援団の意見やニーズを継続して把握するとともに、只見線応援団が活躍できる場や機会を積極的に創出するなど、只見線応援団を今以上に活かしていくための仕組みや体制づくりを進めます。

28 只見線ファンイベントの開催

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
●	●	○		▶				

只見線ファンが地域に集い、交流を深めるようなイベントを企画・開催します。

29 只見線をテーマとしたふるさと納税の開発・運用

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
○	●			▶				

只見線沿線地域で、只見線の更なる利活用の推進を目的としたふるさと納税を募集するとともに、その返礼品の共同開発について検討します。

重点プロジェクト

6 みんなの只見線プロジェクト～只見線に乗って～

5つの価値との関係	交通	交流人口	象 徴	関係人口	暮らし
	●		●		



背 景	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 只見線を未来に残していくためには、只見線の価値や重要性を地域住民がしっかりと認識し、守っていくという強い意志（マイレール意識）が必要かつ重要となります。その意識の中で、地域住民の方が生活の中で只見線をしっかり利用することがベースになります。 ➤ 只見線の全線運転再開を契機として地域の機運を高め、地域一丸となって只見線の利活用に取り組む必要があります。 ➤ また、只見線沿線には、只見線を支援する様々な団体があり、これらの団体が、それぞれで連携し、活発に活動できるような環境を整えていくことが求められます。
目 的	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 地域の機運を高め、沿線住民のマイレール意識を醸成するとともに、より利用しやすい只見線とすることで、只見線の生活利用を促進します。 ➤ また、只見線を大切に思う気持ちを来訪者のおもてなしの心につなげます。
概 要	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 只見線の価値や沿線地域の魅力を住民が再認識できるような取組を行うとともに、只見線がより便利で利用しやすくなるような取組を行うことで、只見線の生活利用を促進します。 ➤ 只見線の利活用促進につながるような地域住民等の自主的な取組を支援します。 ➤ また、只見線を利用して訪れる来訪客をおもてなしする意識の醸成を図ります。
K P I	<p>◆ 住民、団体等による只見線利活用企画数 現状：127件【2018～2022】→ 目標：120件【2023～2027 累計】</p>

◆ 施策メニュー

30 只見線応援活動の展開（活動に対する支援の実施）

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
●	●		●					

地域住民や団体等が実施する只見線の利活用促進につながるような取組に対し、活動費の一部を助成する制度を運用します。

31 住民向け沿線ツアーの実施

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
○	●		○					

只見線の価値や自分が住んでいる地域の魅力に改めて気づいてもらうとともに、マイレール意識の醸成を目的とした住民向け沿線ツアーを実施します。

32 「只見線にみんなで手を振ろう」意識啓発

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
	●		○					

只見線の列車に手を振る活動を広めるための意識啓発活動を継続して行います。

33 只見線の価値計測のための調査の実施

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
●	●							

本計画の最終年度となる令和9（2027）年度に、第2章で設定した目標の達成状況を把握するための各種調査を実施します。

再 最適ダイヤの検討・検証

利用者の目線で、休日ダイヤや快速運行等も含めた只見線の望ましい運行ダイヤを検討し、実験的な運行を通じてその効果と課題を検証します。

再 利用者にやさしい駅づくり

駅的环境整備や駐車場整備、広場やトイレなどの環境美化、初めての人向けの乗り案内の掲示、冬季の待合室へのストーブの設置など、利用者にやさしい駅づくりを進めます。

再 駅や線路沿いの美化活動、花壇等の整備・管理

沿線の地域住民有志の協力のもと、駅の清掃活動や線路沿いの除草活動を行います。また駅や線路沿いにおける花壇整備や植樹など、只見線の良好な景観形成に向けた取り組みを行います。

重点プロジェクト

7 只見線産業育成プロジェクト

5つの価値との関係	交通	交流人口	象徴	関係人口	暮らし
		●	・	●	・



背景	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 只見線は「世界で最もロマンチックな鉄道」として認知度やブランド力があります。 ➤ また、只見線の全線再開により、多くの来訪客が只見線を利用して訪れており、乗車記念となるような土産物に対するニーズは高いものと考えられます。 ➤ このような只見線の価値を最大限に活用し、地域産業の活性化や育成につなげていく視点が重要となります。
目的	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 只見線を目的に訪れる来訪客の存在を地域の活性化に最大限につなげるため、観光資源の磨き上げや新たな土産物等の開発・販売、マルシェ等の開催を通じ、観光消費の拡大による地域経済への波及効果を目指します。 ➤ また、只見線関連の商品やサービスの開発により新たな産業の育成を目指します。
概要	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 只見線オリジナルの駅弁・土産物・グッズ等の開発、体験プログラムとしての商品化を目指した観光資源の磨き上げに取り組みます。 ➤ また、食のブランド化やマルシェの開催など沿線地域の連携による取組を展開します。
KPI	<p>◆ 只見線駅等施設の年間売り上げ 現状：21,639 千円【2021】→ 目標：38,950 千円【2027】</p>

◆ 施策メニュー

34 沿線グルメ連携・ブランディング（只見線につながる食文化）

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
○	●		●	▶				

沿線地域で関連する食材や料理等をピックアップし、只見線沿線グルメとして連携したブランディング活動を展開します。

35 駅を中心としたマルシェ（軽トラ市等）の開催

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
	●		●	▶				

イベント列車の運行等とも連携させ、地域の特産物や採れたて野菜等を駅前広場等で販売するマルシェ（軽トラ市等）を各駅で定期的に開催します。

再 只見線オリジナルの駅弁・土産物・グッズ等の開発・販売

只見線オリジナルの魅力的な駅弁や土産物・グッズ等を民間企業と連携して開発し、駅や列車内、道の駅等で販売します。

再 観光資源磨き上げ（着地型旅行商品の造成等）

沿線地域に存在する観光資源のハード、ソフト両面からの磨き上げを継続して行い、訴求力を高めるとともに、体験プログラムとしての商品化を目指します。

重点プロジェクト

8 只見線二次交通整備プロジェクト

5つの価値との関係	交通	交流人口	象 徴	関係人口	暮 ら し
	●	●			



背 景	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 只見線の利用促進を図る上では、駅と接続する二次交通の整備・拡充が必要であり、平成 30（2018）年度からの前計画期間においてもバス路線の新規整備・運行に取り組んでいます。 ➤ また、柳津町、三島町、金山町、只見町等では、只見線の二次交通の一つとしてレンタサイクル事業を展開しており、柳津町と三島町では相互乗り捨てサービスも行われています。 ➤ さらに、会津美里町では AI 導入によりアプリからいつでも予約できるデマンドタクシー（美里あいあいタクシー）の整備を、金山町や只見町ではレンタカーの整備を行っており、多様な二次交通のサービス提供を目指しています。
目 的	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 周遊バスやレンタサイクル、レンタカー等の二次交通の整備により、生活利用、観光利用の両面で只見線の利用促進を図ります。
概 要	<ul style="list-style-type: none"> ➤ デマンドバス・タクシー、周遊バスなど、駅と接続した二次交通事業を拡充するとともに、レンタサイクルやレンタカーの整備・導入を目指します。 ➤ また、自転車を列車内に持ち込めるサイクルトレインの導入を目指します。
K P I	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 奥会津地域のレンタサイクル年間利用者数 現状：325 人【2022】→ 目標：700 人【2027】 ◆ 奥会津地域の観光タクシー年間利用件数 現状：78 件【2022】→ 目標：160 件【2027】

◆ 施策メニュー

36 周遊バス・観光タクシーの運行

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
●	●		●	▶				

デマンドバス・タクシー、周遊バスなど、駅と接続した二次交通事業を拡充し、地域住民や観光客が利用できる公共交通網を構築します。

37 レンタサイクルの整備・広域乗り捨て連携の推進

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
	●		○	▶				

駅や観光案内所、道の駅等でレンタサイクルを整備するとともに、町域を越えた広域的な乗り捨てサービスの提供体制の構築を目指します。

38 奥会津レンタカー（カーシェアリング）の導入

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
	●		●	▶				

二次交通の一つとして、奥会津地域全体で、乗り捨ても可能なレンタカー（カーシェアリング）サービスの導入を目指します。

39 サイクルトレインの導入

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
○	○	●		▶				

自転車を列車内に持ち込めるサイクルトレインの導入に向け、現在の利用状況等を踏まえた実施方法について検討した上で実証実験を実施し、サービスの本運用を目指します。

（参考）JR水郡線のサイクルトレイン



- ▶ JR水郡線では、自転車を解体せずに車内に持ち込める「サイクルトレイン」の導入に向け、令和3（2021）年5月から実証実験を実施し、令和4（2022）年4月より本運用を開始している。利用にあたっては専用WEBサイトでの事前登録が必要。
- ▶ 乗降可能駅は5駅で、対象となる列車の区間、時間帯の指定あり。サービスは土休日のみで利用料は無料。
- ▶ 固定バンドや輪行袋の貸出あり。

重点プロジェクト

只見線の新たな価値創造プロジェクト

9

～幸せを運ぶ只見線～

5つの価値との関係	交通	交流人口	象徴	関係人口	暮らし
			・	・	●



背景	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 只見線は、旅客輸送を担うことが一義的な役割ですが、只見線の「価値」を地方創生に最大限に活かしていく上では、柔軟な発想で、旅客輸送以外での只見線の新たな利活用方法や役割を考えていくアプローチも重要です。 ➤ 近年、鉄道各社では、旅客車両を使って生鮮品等の貨物輸送に取り組む動きが広がっています。特に、利用者数が減少している地方鉄道等では、旅客運賃収入以外の新たな収入源としても期待されています。 ➤ また柳津町では、会津柳津駅舎を JR 東日本から譲り受け、情報発信交流施設としての活用を進めており、駅舎等の鉄道施設を新たな視点で活用していくという方向性も考えられます。
目的	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 只見線の新たな活用方法を検討・試行し、沿線地域の生活利便性や暮らしやすさの向上につなげます。 ➤ また、新たな発想によるユニークな取組により、各種メディアを通じて只見線の魅力を発信し、認知度向上につなげます。
概要	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 只見線の駅舎等の鉄道施設の新たな活用や旅客輸送以外の活用可能性について検討・試行します。 ➤ また、柔軟な発想で只見線の新たな利活用方法のアイデアを募集するコンテストの開催について検討します。
KPI	<p>◆ 只見線の新たな利活用の実現 現状：なし → 目標：新たな利活用の実現</p>

◆ 施策メニュー

40 只見線駅文庫の継続・拡充

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
●		○	○	■				

県立図書館で除籍された本を活用し、令和元（2019）年10月からJRの協力を得て実施している只見線駅文庫を継続しつつ、設置駅を増やすことで只見線に新たな価値を付加します。

41 「モノを運ぶ只見線」可能性の検討・検証

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
○	●	○		■				

奥会津地域の特産品を会津地域や小出方面に地元の小学生が運ぶ「おつかい代行」など、貨客混載サービスの導入可能性について検討・検証します。

42 只見線の新たな活用コンテストの開催検討

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
●	●	○		■				

生活の利便性や暮らしやすさの向上につながる、新たな只見線の活用方法のアイデアを募集し、優良なアイデアを実験的に試行するコンテストの開催について検討します。

(参考) 第1回只見線全国高校生サミット



- 福島県では、若者の柔軟なアイデアを全線運転再開後の課題となる鉄道利用の促進や過疎地域の振興策に生かすため、「只見線全国高校生サミット」を開催した。
- 県内を含め計7校が参加し、只見線の新たな活用方法や利用促進策を検討し、令和4（2022）年12月18日に開催されたプレゼンテーション大会でアイデアを発表した。

重点プロジェクト

10 只見線魅力発信プロジェクト

5つの価値との関係	交通	交流人口	象徴	関係人口	暮らし
		●	●	●	



背景	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 令和4（2022）年10月1日に全線運転再開を果たし、只見線が各種メディアに多く取り上げられたものの、全国的に見れば只見線の認知度はまだ低いのが現状です。 ▶ 交流人口を呼び込み、只見線を利用してもらうためには、まずは只見線の存在およびその魅力を広く知ってもらう必要があります。
目的	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 只見線のプロモーションを強化し、ウェブページやSNS、テレビなど、様々な媒体により地域の魅力を発信します。 ▶ また、地域がチャレンジする姿を積極的に発信し、共感の輪を広げます。
概要	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 只見線ガイドブックの制作、ポータルサイトの管理・運営を継続して行うとともに、内容を拡充・充実させます。 ▶ 「世界の只見線」フォトコンテストの開催や、只見線および各駅の愛称募集等の取組を通じ、只見線の認知度を向上させます。
KPI	<p>◆ 首都圏での只見線認知度※ 現状：19.1%【2022】→ 目標：40.0%【2027】</p> <p>※調査対象：千葉県、埼玉県、東京都、神奈川県在住の20～60代の男女</p>

◆ 施策メニュー

43 只見線ガイドブックの制作とポータルサイトの管理・運営

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
●	○	○	○	▶				

只見線および沿線地域の魅力を紹介する「只見線ガイドブック」を継続して制作・発行します。また、只見線ポータルサイトや SNS を活用した効果的な情報発信を継続して行います。

44 只見線を舞台とした映画やドラマ、応援ソングを活用した PR

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
●			●	▶				

只見線を舞台とした映画「霧幻鉄道 只見線を 300 日撮る男」やドラマ「あいせき列車・只見線」、只見線応援ソング等を活用した効果的な PR 活動を展開します。

45 「世界の只見線」フォトコンテストの開催

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
●	○	○		▶				

“撮り鉄”の聖地を目指し、世界のカメラマンが参加したくなるような権威ある賞のフォトコンテストの開催を目指します。

46 只見線および各駅の愛称募集

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
●	●	○		▶				

只見線の認知度向上と愛着の醸成を目的とし、只見線および各駅の愛称をアイデア募集します。また、採用された愛称の活用方法について検討します。

47 只見線オリジナルの印帳・印の制作・配置

役割分担				実施スケジュール				
県	市町	J R	民間（住民）	2023	2024	2025	2026	2027
○	●	○		▶				

只見線オリジナルの印帳と印を制作し、各駅に設置することで、駅めぐりを誘発します。また全印を集めた人に特産品等をプレゼントする取組を行います。

重点プロジェクト	施策メニュー	役割分担				実施スケジュール				
		県	市町	J R	民間 住民	2023	2024	2025	2026	2027
① 目指せ海の五能線、山の只見線プロジェクト	<イベント列車・観光列車の運行>									
	1 「びゅうコースター風っこ」等のイベント列車の企画・運行	○		●	●	■	■	■	■	■
	2 イベント列車のおもてなし・歓迎サービスの提供	○	●	○	●	■	■	■	■	■
	3 只見線オリジナル観光列車の導入に向けた調査・準備	●	○	●		■	■	■	■	■
	<観光サービス・資源磨き上げ>									
	4 定期列車における観光サービスの充実化	●	○	●	○	■	■	■	■	■
	5 観光資源磨き上げ(着地型旅行商品造成等)	○	●		●	■	■	■	■	■
	6 駅を起終点としたエリアごとのまち歩きマップ等の作成	○	●				■	■	■	■
	7 「只見線で楽しむ旅」旅行商品の造成とツアー催行	●			●	■	■	■	■	■
	8 只見線オリジナルの駅弁・土産物・グッズ等の開発・販売	○	○		●	■	■	■	■	■
	9 最適ダイヤの検討・検証	●	○	●		■	■	■	■	■
	10 利用者にやさしい駅づくり	●	●	●		■	■	■	■	■
11 マイカー回送サービスの導入可能性の検討	○	○		●		■	■	■	■	
12 特別切符の導入可能性の検討	○		●		■	■	■	■	■	
② 奥会津景観整備プロジェクト	13 景観支障木の伐採・管理	●	●	●		■	■	■	■	■
	14 只見線ビューポイントの整備・管理	●	●		○	■	■	■	■	■
	15 駅や線路沿いの美化活動、花壇等の整備・管理	○	○	○	●	■	■	■	■	■
	16 只見線の施設等のライトアップの検討	○	●	○		■	■	■	■	■
③ 只見線学習列車プロジェクト	17 学習列車の運行(体験プログラムの提供)	●	●	○	○	■	■	■	■	■
	18 学習列車プログラムのメニュー化	●	●				■	■	■	■
	19 只見線を活用した奥会津教育旅行プランの作成と情報発信	●	●					■	■	■
	20 沿線の小中学校を対象とした社会科学学習等を通じた乗車促進		●			■	■	■	■	■
④ インバウンド誘客再加速化プロジェクト	21 インバウンド誘致に向けたプロモーションの展開	●	○	○	○	■	■	■	■	■
	22 地元通訳人材の発掘と体制整備		●		●	■	■	■	■	■
	23 ビューポイント等における外国人観光客へのおもてなし		●		●	■	■	■	■	■
	24 宿泊施設等における外国人観光客の受入環境整備	○	○		●		■	■	■	■

●：実施主体 ○：連携・協力対象

重点プロジェクト	施策メニュー	役割分担				実施スケジュール				
		県	市町	J R	民間 住民	2023	2024	2025	2026	2027
⑤ 只見線を介した 関係人口創出 プロジェクト	25 大学生等による地方創生の推進	○	●		●	▶				
	26 鉄道ファンの受入とおもてなし	●	●	○		▶				
	27 只見線応援団の拡大・ ネットワーク化	●	○			▶				
	28 只見線ファンイベントの開催	●	●	○		▶				
	29 只見線をテーマとした ふるさと納税の開発・運用	○	●			▶				
⑥ みんなの只見線 プロジェクト ～只見線に乗って～	30 只見線応援活動の展開 (活動に対する支援の実施)	●	●		●	▶				
	31 住民向け沿線ツアーの実施	○	●		○	▶				
	32 「只見線にみんなで手を振ろう」 意識啓発		●		○	▶				
	33 只見線の価値計測のための 調査の実施	●	●			▶				
	再 最適ダイヤの検討・検証	●	○	●		▶				
	再 利用者にやさしい駅づくり	●	●	●		▶				
	再 駅や線路沿いの美化活動、 花壇等の整備・管理	○	○	○	●	▶				
⑦ 只見線産業育成 プロジェクト	34 沿線グルメ連携・ブランディング (只見線でつながる食文化)	○	●		●	▶				
	35 駅を中心としたマルシェ (軽トラ市等)の開催		●		●	▶				
	再 只見線オリジナルの駅弁・土産物 ・グッズ等の開発・販売	○	○		●	▶				
	再 観光資源磨き上げ (着地型旅行商品の造成等)	○	●		●	▶				
⑧ 只見線二次交通 整備プロジェクト	36 周遊バス・観光タクシーの運行	●	●		●	▶				
	37 レンタサイクルの整備・ 広域乗り捨て連携の推進		●		○	▶				
	38 奥会津レンタカー (カーシェアリング)の導入		●		●	▶				
	39 サイクルトレインの導入	○	○	●		▶				
⑨ 只見線の新たな価値 創造プロジェクト ～幸せを運ぶ只見線～	40 只見線駅文庫の継続・拡充	●		○	○	▶				
	41 「モノを運ぶ只見線」 可能性の検討・検証	○	●	○		▶				
	42 只見線の新たな活用コンテストの 開催検討	●	●	○		▶				
⑩ 只見線魅力発信 プロジェクト	43 只見線ガイドブックの制作と ポータルサイトの管理・運営	●	○	○	○	▶				
	44 只見線を舞台とした映画や ドラマ、応援ソングを活用したPR	●			●	▶				
	45 「世界の只見線」 フォトコンテストの開催	●	○	○		▶				
	46 只見線および各駅の愛称募集	●	●	○		▶				
	47 只見線オリジナルの 印帳・印の制作・配置	○	●	○		▶				

●：実施主体 ○：連携・協力対象

第4章 計画の推進体制と進め方

(1) 推進体制

本計画の実行性を高めるためには、計画に位置付けた施策を確実かつ効果的に取り組んでいくことができる推進体制をしっかりと構築することが重要となります。そこで、只見線利活用推進協議会の中に分野別部会を設け、各部会がそれぞれのテーマの中で施策を具体化し、地域間および自治体間の連携、官民の協働のもとで、取組を推進します。

只見線利活用推進協議会

- 【構成員】 福島県、沿線市町、奥会津振興センター等商工・観光関係団体
- 【オブザーバー】 国土交通省東北運輸局、東日本旅客鉄道株式会社東北本部、会津乗合自動車株式会社、道の駅 等
- 【役割】
- ・各分野別部会での取組に関する情報を共有し、部会間での取組連携を図る
 - ・アクションプログラムの策定と取組全体の進行管理 等

<分野別部会>

それぞれのテーマの中で施策を具体化し、取組内容を検討・実施していく実働組織



<分野別部会の例>

運 行 施 策 部 会

- 列車の運行や鉄道施設の活用に関わる施策について担当
- ・只見線オリジナル観光列車の導入に向けた調査・準備
 - ・最適タイヤの検討・検証 等

二 次 交 通 ・ 乗 車 促 進 部 会

- 二次交通の整備や鉄道の乗車促進に関わる施策について担当
- ・奥会津レンタカー（カーシェアリング）の導入
 - ・マイカー回送サービスの導入可能性の検討 等

交 流 促 進 ・ 景 観 整 備 部 会

- 観光資源の磨き上げやイベントの開催など受け入れ体制整備や交流活動について担当
- ・只見線ビューポイントの整備・管理
 - ・只見線ファンイベントの開催 等

プ ロ モ ー シ ョ ン ・ イ ン バ ウ ン ド 誘 致 部 会

- 只見線や地域のプロモーションおよびブランド化に関わる施策について担当
- ・インバウンドに向けたプロモーションの展開
 - ・沿線グルメ連携・ブランディング（只見線でつながる食文化） 等

(2) 計画の進行管理と必要な見直し

重点プロジェクトごとに設定している KPI については、只見線利活用推進協議会において毎年度の達成状況を確認し、計画の進行管理を行います。

また、本計画に位置付けている施策メニューについては、適宜、必要に応じた内容の見直しやメニューの追加等を行い、只見線の利活用の推進と鉄道を活かした沿線地域の活性化に向け、状況に応じた効果的な取組を展開していただけるようにします。

(3) アクションプログラムの策定

本計画に位置付けた施策メニューを実現していくために、只見線利活用推進協議会において、具体的な事業案を盛り込んだアクションプログラムを毎年度策定し、10 の重点プロジェクトを着実に実行していきます。

只見線利活用計画 2023-2027

第二期只見線利活用計画検討会議

(構成員)

福島県、会津若松市、会津美里町、会津坂下町、柳津町、三島町、金山町、只見町、
奥会津振興センター、一般財団法人会津若松観光ビューロー
公立大学法人会津大学短期大学部 高橋延昌、えちごトキめき鉄道株式会社 鳥塚亮、
柳津町花ホテル滝のや 塩田恵介、只見線地域コーディネーター 酒井治子

(オブザーバー)

国土交通省東北運輸局、東日本旅客鉄道株式会社東北本部、奥会津郷土写真家 星賢孝、
福島県会津地方振興局、福島県南会津地方振興局、福島県土木部まちづくり推進課、
福島県宮下土木事務所、福島県南会津建設事務所、福島県観光交流局観光交流課

(事務局)

福島県只見線管理事務所

〒965-0041 福島県会津若松市駅前町1-1

TEL 0242(93)5155